

日本独自のサステイナブルな社会システム構築へ！

異次元の高齢化社会を迎える日本に、  
新しい発想で参画のプラットフォームを  
共に創りませんか？

ジェロントロジー研究協議会  
*The Research Council Of Gerontology*



# 「知の再武装」による新しい社会構想を提起します。

**80歳以上の人口が1,000万人を超した日本。**

異次元とも言うべき高齢化社会の到来を、これまでの政策科学・社会科学は予見してはいましたが、その意味を理解した社会システム・制度の再設計に活かしていません。

また、個人についても老化による身体能力の衰えを直視する必要があります。

「100歳人生」が語られる今、**60歳前後で定年退職を迎えた人は、その後の40年を超える人生をどう生きるのか。**

**これまで「老年学」と翻訳されてきた、欧米で盛んな学問「ジェロントロジー」。**

**私たちはこれを「高齢化社会工学」と捉え直し、広い視界から社会総体のあり方、**

**人間の生き方を探り、日本ならではの新しい社会構想の提起を試みます。**

**人間の知能の潜在能力は高いものです。**

**心の底を見つめ、全体知に立ってこそ、美しい世界のあり方を見抜く力は進化しえます。**

**「知の再武装」を志向する理由はここにあります。**

寺島実郎『ジェロントロジー宣言』（NHK出版新書）を元に構成

この宣言に基づき、本格的かつ体系的なジェロントロジー研究を進めるための「ジェロントロジー研究協議会」を立ち上げました。

## メンバー

### ジェロントロジー研究協議会 コアメンバー

◎：座長（50音順／敬称略／12名／2019年10月現在）



座長 寺島実郎

池森 賢二 (株)ファンケル 代表取締役会長  
北沢 利文 東京海上日動火災保険 (株)取締役副会長  
古賀 伸明 (公財) 連合総合生活開発研究所 理事長  
佐藤 康博 (株)みずほフィナンシャルグループ 取締役会長  
菅原 公一 (株)カネカ 代表取締役会長  
田川 博己 (株)JTB 代表取締役会長

◎ 寺島 実郎 (一財) 日本総合研究所会長・多摩大学学長  
中島 正弘 (独) 都市再生機構 理事長  
平岡 昭良 日本ユニシス(株) 代表取締役社長  
藤井 健 (株)東急総合研究所 顧問  
宮島 篤 保健・医療パラダイムシフト推進協議会 理事長代行  
山野 正義 山野学苑 総長

### オブザーバー

江崎 禎英 経済産業省商務・サービスグループ政策統括調整官 (兼 厚生労働省医政局統括調整官、内閣官房健康・医療戦略室次長)

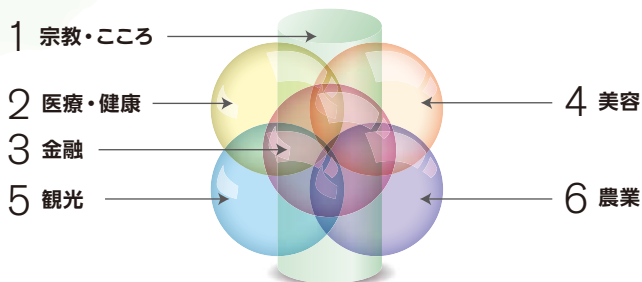
### ジェロントロジーに係る体系的研究会 メンバー

◎：座長／○：座長代理（50音順／敬称略／13名／2019年10月現在）

飯田 泰之 明治大学 政治経済学部 准教授  
石原 英里 日本ユニシス(株) 総合技術研究所 生命科学室長  
小野田 弘士 早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科 教授  
久保田 貴文 多摩大学 経営情報学部 准教授  
○ 小林 英夫 多摩大学 経営情報学部 教授  
嵯峨 生馬 認定NPO法人サービスグラント 代表理事  
桜井 良太 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 研究員  
高汐 一紀 慶應義塾大学 環境情報学部 教授  
高瀬 顕功 大正大学地域構想研究所 BSR 推進センター 助教  
津田 好美 早稲田大学文学部 准教授  
◎ 寺島 実郎 (一財) 日本総合研究所会長・多摩大学学長  
松宮 朝 愛知県立大学 教育福祉学部 准教授  
○ 宮内 康二 山野学苑 教授

多くのステークホルダーの力強い参画を得て、多様な分野の専門知を体系化し、高齢化社会における「参画のプラットフォーム」を創造する挑戦をしています。

## 研究分野 (クラスター)

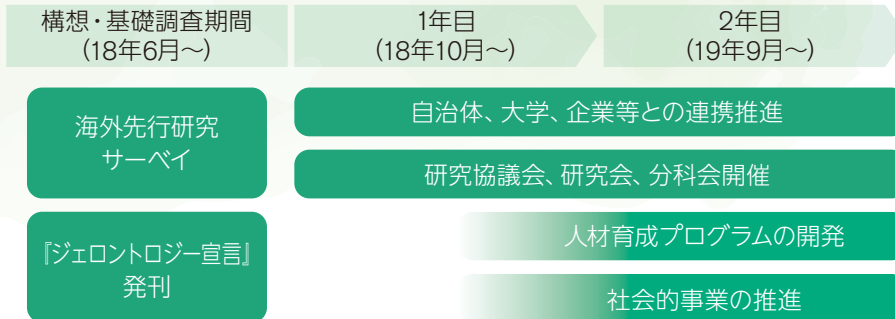


高齢者や高齢者予備世代の強みに注目し、ジェロントロジーの視点から、6つの分野(クラスター)にてシニアゆえに参画ができるプラットフォームについて2年間研究をします。

私たちが考える「参画のプラットフォーム」は、シニアが「知の再武装」をすることで活躍できる「場」をつくるというものです。宗教・こころを基軸に、6つのクラスターが相互に関連・影響しあうシナジーを高めつつ成長しています。

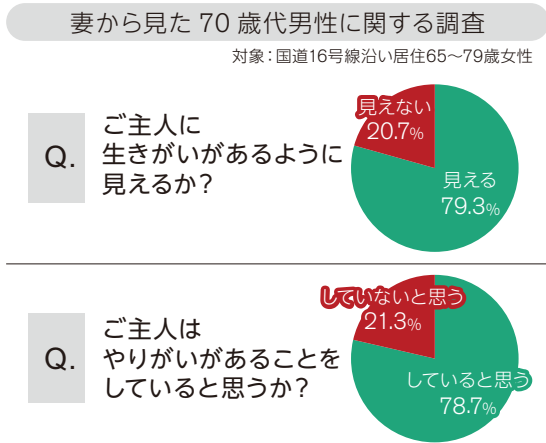
# 研究フェーズの主な活動・成果 (2018年6月～19年9月)

- 海外先行研究サーベイや『ジェロントロジー宣言』の発刊からスタートし、「ジェロントロジー＝高齢化社会学」について、多様なステークホルダーと議論し考えを深化させてきました。
- 具体的な社会システムの構想に資する高齢者を対象としたファクト調査やヒアリングを積み重ね、情報や知見・ネットワークを蓄積してきました。



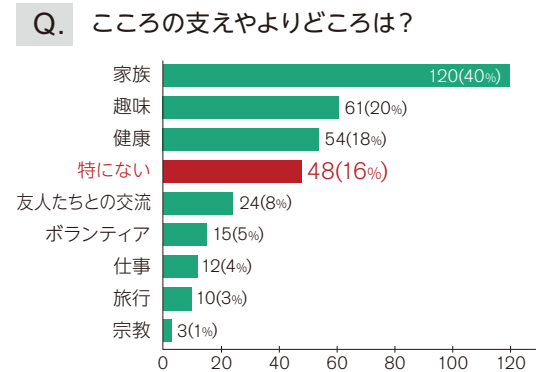
## 主な研究成果

### 1 「充実していない」シニアの確認



### 社会的事業への参画意向ファクト調査

対象：国道16号線沿い居住70歳代男性



「生きがい」「やりがい」があると見られ、「家族」や「趣味」といったこころの支えをもっているシニアが多数。一方で、「生きがい」「やりがい」があるように見えない、自身でも心の支えが「特にない」と回答するシニアが20%前後と、「充実していない」シニアの存在も確認できました。

### 2 各分科会の研究状況 (※19年10月時点)

<h4>1 宗教・こころ</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの人生に向きあい、これからの「ツトメ」に向けた人生設計を行う「ノート」を考案</li> </ul>	<h4>2 医療・健康</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PHRデータの一元的管理システムの開発事業を検討</li> <li>●「健食」「健活」事業を設計</li> </ul>	<h4>3 金融</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症高齢者等に係る財産管理、後見制度に対する提言を検討</li> <li>●自治体と連携した「後見ほっとライン」事業を推進</li> </ul>
<h4>4 美容</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本庄市、山野学苑と協定締結</li> <li>●在宅シニア向け美容施術を実施</li> </ul>	<h4>5 観光</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ニーズ把握のアンケート調査結果を元に、高度観光人材育成プログラムを開発</li> </ul>	<h4>6 農業</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>●シニアの心身や生活の状況等のディープマインド調査を実施</li> <li>●連携農家等と人材育成プログラムやプラットフォームを設計</li> </ul>

1年目の研究を通じ、世代・職種・分野横断的な参画メンバーが共通の目標に向けて、連携・協力できる体系的な研究基盤が整備・確立され、各クラスターごとに研究が深化しています。本研究では「都市郊外型の高齢化が課題」という前提のもと、「都市郊外に住むシニアがどのようなプラットフォームに参画するか」を、各クラスターの視点から検討を進めています。

# シニアの皆様へ

今まで培ってきた経験や知恵を、もっと社会に生かせるようにしてませんか？

今よりさらに「生きがい」「やりがい」を感じられるような行動をしてみませんか？

## 「ジェロントロジー人材育成プログラム」で「知の再武装」をしましょう！



### ▶ プログラムを受講することで…

- ▶ 個人(自分自身)・地域・社会などを取り巻く様々な課題を再認識できる
- ▶ 所属していた組織とは異なる、新たな出会いがある
- ▶ 自分が果たせる役割を考え、行動のきっかけになるコミュニティを作る

### ▶ 今後開講されるプレ講座に、ぜひご参加ください。(いずれも予定)

- ▶ 19年11月 <共通+観光>
- ▶ 20年 3月 <共通+金融>
- ▶ 20年 5月 <共通+健康>

ジェロントロジー研究協会



※会場は多摩大学の予定です。プレ講座につき、無料で受講可能です。詳細はホームページにて随時更新予定です。

### なぜ共通+専門プログラムで「60時間」？

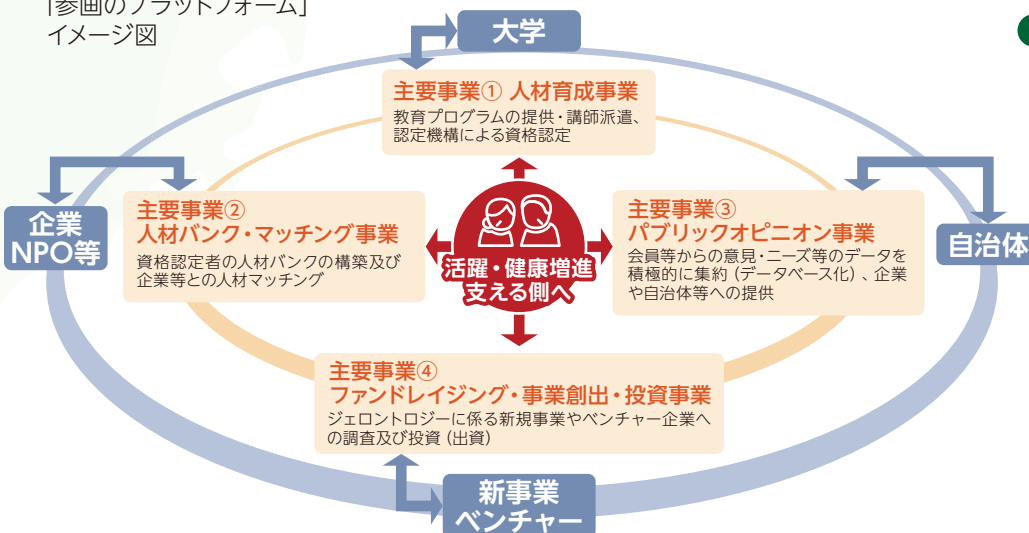
- プログラムの受講時間が60時間以上の場合、学校教育法105条により大学等が履修証明書を交付することが可能になるためです。
- この仕組みを活用し、「ジョブカード」へ連動させることで就業機会を増やすと同時に、本プログラムを受講することがインセンティブとなり、より多くのシニアの社会参画のきっかけとなるようにしたいと考えています。

ハイライト動画を公開中！



## 「ジェロントロジー「参画のプラットフォーム」を活用しましょう！

「参画のプラットフォーム」イメージ図



### ▶ 活用することで…

- ▶ 人材育成プログラムで修得した知識・技術を社会に還元でき、やりがいを見出せる
- ▶ 就労等で、社会的な接点を持つことができ、生きがいを見出せる
- ▶ 自分の「声」が企業や自治体等に届く仕組みに身を置き、よりよい社会づくりの一助となる

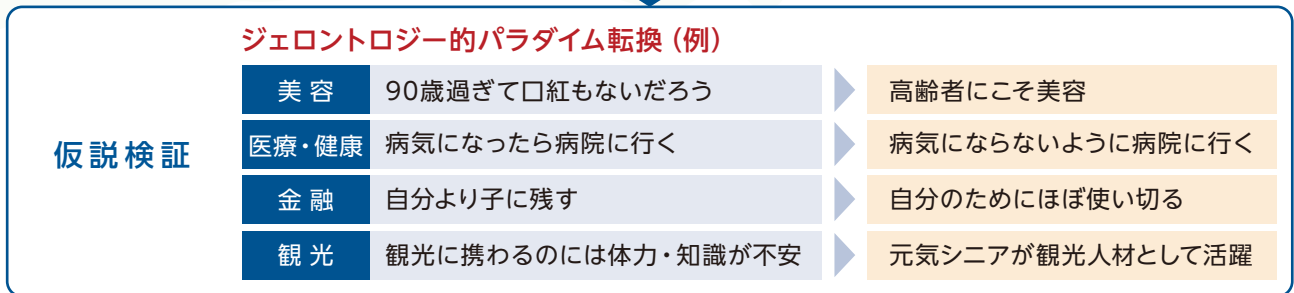
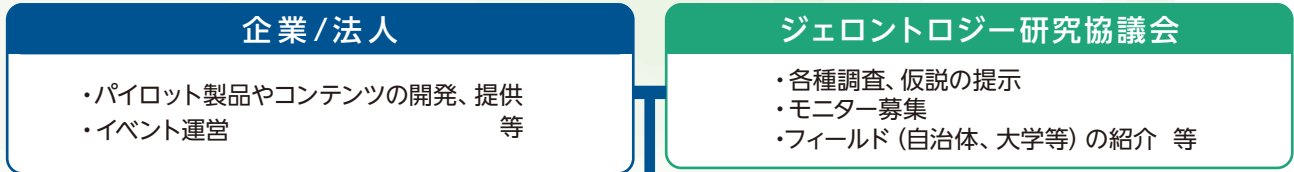
# 法人・企業経営者の皆様へ

個社ではできない新しい社会的事業を、多様な企業間の連携で構築しませんか？

退職後のOB・OG組織を、社会的な役割を果たす組織と連携させませんか？

## パラダイム転換期のビジネスを共に創りましょう！

ビジネス共創のイメージ図



### 製品やコンテンツの本格投入

▶ 今後開講される研究協議会に、ぜひご参加ください。  
(いずれも予定)

- ▶▶ 19年11月27日
- ▶▶ 20年 3月
- ▶▶ 20年 6月

※ 詳細は協議会事務局までお問い合わせください。



## 退職者のOB・OG組織と連携し、より広範にシニアを組織化しましょう！

「日本版AARP」のイメージ図

シニアを組織化 = パブリック・オピニオン機能を付与



### ▶ 連携することで…

- ▶▶ 退職後に孤独になりがちなシニアを組織化させることで、社会との接点を持たせ続けることができる
- ▶▶ 広範なシニアのニーズ等を拾い上げることが可能となり、より高付加価値なベネフィットをシニアに還元できる
- ▶▶ シニアの「声」を受け取りやすくなり、ニーズにあった製品・サービスの提供が可能となり、企業価値を高められる

「AARP」とは？

- 米国に存在する「全米退職者協会」のことで、会員数が約3,800万人（50歳以上）のNPOです。
- 会員向けにグループ医療保険などの提供をしており、公的な医療保険の存在しない米国では存在意義は大きい。その他に、会員へのボランティア活動の機会提供、高齢者の運転技術向上や納税補助、低所得高齢者の雇用促進プログラムも行っていきます。
- ジェロントロジーのための研究補助や政策研究、提言のためのシンクタンク機能もあり、専門家を雇って議会や政府の高齢者政策をチェックするロビー活動も重要な役割です。

# 自治体の皆様へ

「少子高齢化」「人口減少」に  
具体的に  
立ち向かっていきませんか？

住民の幸福度を高めるために  
時代に即した、  
価値ある政策を展開しませんか？

## 包括協定を締結し、共同で研究を推進しましょう！



自治体のニーズに即した、より効果的な事業の創出を目指し、「ジェロントロジーのための実証事業に関する協定書」を締結し、すでに共同で研究を始めている自治体があります。

埼玉県本庄市

埼玉県上尾市

「都会」と「地方」の呼应を意識し、両者間の移動や交流を促進することを着地点とします。



## 地域の課題を整理し、クラスター概念で事業を創出しましょう！

住民へのインタビュー（ヒアリング）やアンケート等の調査を通じて、地域の課題を整理し、「ジェロントロジー」の視点から、どのような施策が効果的かを考えます。

### 事業例

#### 美容（埼玉県本庄市、19年9月～）

市報にて30名のモニターを募集し、介護サービスの時間中にネイルケアを行いました。



埼玉県本庄市「広報ほんじょう」  
2019年5月1日号より抜粋



緊張しながらも、「楽しい」と感想（75歳男性）



「孫に見せたい」と笑顔（78歳女性）

### 今後の展開

ネイルケア以外の施術も含め、美容が与える心理的効果及び本事業の経済的波及効果について引き続き分析をしていきます。

#### 金融

成年後見に係わる相談先として、公証人経験者等と連携した「後見ほっとライン」事業を推進しています。

#### 観光

マッチングプラットフォーム等を通じ、外国人向けの生活・文化体験プログラム提供や、外国人向けのまち歩きガイドを行う等の活動する場を創出します。

## ジェロントロジーの視点で、複層的な地方創生を実現しましょう！

現在、山林や田園が広がる、どこにでもある「田舎」をジェロントロジーのコンセプトで創生する構想を検討しています。埼玉県内の小規模自治体をパートナーに、ジェロントロジーを横軸に、複数の分野を掛け合わせた「総合的視点」で施策・事業を立案・創出し、複層的な地方創生を実現します。

例えば、健康事業で身体が健康になり、そのシニアが農業に従事することで、より心身の健康を維持し、さらに地域の農業を観光と掛け合わせることで、空き家を活用した農泊や古民家体験などインバウンド向けに一期一会の体験を提供する…など。ジェロントロジーと地域資源の組み合わせにより、総合的に社会的課題を解決し、地方創生につながる「パイロットフィールド」の創出を推進していきます。

## 予算化し、専門部署を創設して継続的な市民サービスにしましょう！


# 大学・短期大学等 高等教育機関の皆様へ

地域の社会教育の場を  
創りませんか？

日本ならではの  
ジェロントロジー研究を  
共に進めていきませんか？

## ジェロントロジー人材育成プログラムをアップデートさせていきましょう！

### プログラムの構成

 共通プログラム **20時間** 年を取ることの意義、人間関係、「縁」、体・頭の高齢現象について

 分野別人材育成プログラム **各40時間**

#### 医療・健康

自らの医療・健康データを把握し、体質に合った食生活などによる健康増進を実践

データに基づき健康的な生活を送るためのアドバイスを行うことができる人材の育成

#### 美容

ジェロントロジーを習得したシニア向け美容に詳しい美容師による顔・髪・装いへの施術・体得

そのノウハウを他の高齢者に還元できる人材の育成

#### 金融

認知症高齢者の財産管理サポートや金融取引のアドバイス、現役世代の財テク助言を行うことができる専門人材の育成

#### 観光

自分の得意な事を活かした「もてなし方」を学びながら、外国人観光客との交流を楽しむなど、ハイブリッド型高度観光人材を育成

#### 農業

実際に野菜や果物を栽培・販売を行うことができる農業・食料生産への参画人材の育成

### 今後の展開

最終的にはプログラムの確立、インストラクターマニュアルやテキストの作成等を行い、全国の公私立大学等にてプログラム展開できる人材育成事業とする予定です。

地域に根差した、日本ならではのジェロントロジー研究を進め、日本が迎える異次元の高齢化に立ち向かうことが必要です。研究成果をプログラム内容に反映させ、プログラム自体の価値を高めることが、ジェロントロジー人材の育成・輩出に繋がると考えています。

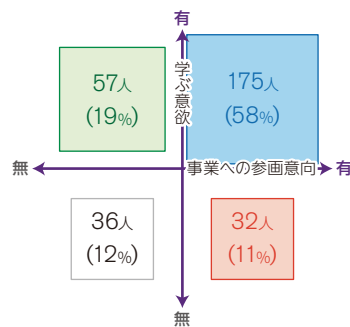
## 地域活性化に向けた教育事業を推進しましょう！



例えば、東京近郊の国道16号線沿いの地域全体では、今後急速に高齢化が進みます。各地域にある大学等が地域の社会教育の拠点となって、「ジェロントロジー」を基本理念に据えた教育事業を展開していく上では、大学等の高等教育機関の役割が重要です。

#### シニアの参画意欲は高い！

国道16号線沿いに居住する70歳代男性300人へのアンケート調査の結果では、「学ぶ意欲」「事業への参画意向」を共に有している男性（右図青枠）が58%という結果となりました。共に意欲が高い層への本プログラムや事業への訴求効果は大きいと考えると同時に、「学ぶ意欲」または「事業への参画意向」のいずれかを有している男性（上図橙枠、緑枠）も合わせて30%という結果から、この層への訴求効果を十分考慮しながら、プラットフォームの創造を進めています。



#### 国道16号線沿い地域全体の高齢者人口

	高齢者人口	高齢者率
2015年	236.9万人	24.8%
2045年(予測)	308.7万人	36.2%

## 今後のスケジュール

第1期  
(2018.7-2020.6)

### 研究フェーズ

- 海外先行研究サーベイや書籍の発刊を通じ、「ジェロントロジー=高齢化社会学」という捉え方を共有
- シニアを対象としたファクト調査やヒアリング等を積み重ね、情報や知見、ネットワーク等を蓄積
- 世代・職種・分野横断的な参画メンバーが共通の目標に向けて、連携・協力できる体系的な研究基盤を整備・確立
- 自治体、大学、企業等との連携を推進し、人材育成プログラムの開発や社会的事業を推進

第2期  
(2020.7-2022.6)

### 実行(立ち上げ)フェーズ

- 全国の公私立大学等にてジェロントロジー人材育成プログラムを展開
- 育成した人材を登録・組織化し、マッチングを通じて社会的事業等への参画を推進する土台を構築(認定証発行・人材バンク構築)
- 各クラスターから創出される新たな社会的事業のパイロットプランを体系化し、地域や自治体全体の活性化に資する「パイロットフィールド」の創出を想定
- ジェロントロジー「参画のプラットフォーム」にて「先進的なコミュニケーション機能」(パブリックオピニオン)を実装し、勉強会や各種イベント、ホームページ上での調査アンケート等を通じて会員の基本情報や意見・ニーズをデータとして収集

第3期  
(2022.7-2024.6)

### 実行(定着)フェーズ

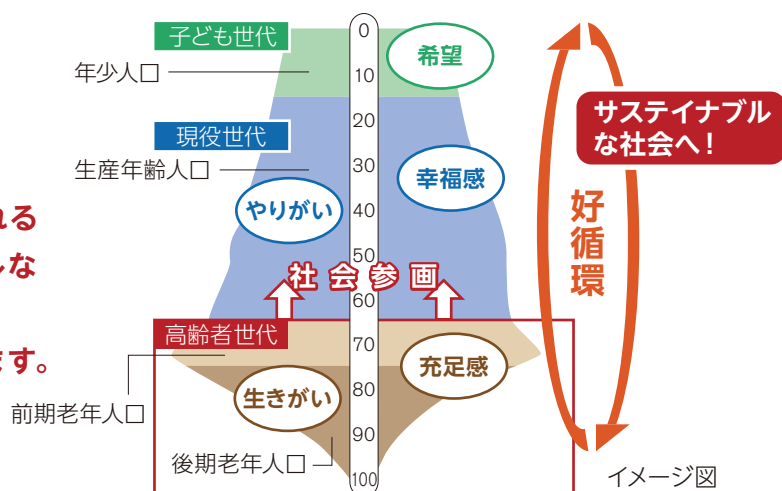
- 人材育成プログラムを修了した人材がマッチングを通じて社会的事業等へ参画
- パブリックオピニオン等を通じて蓄積したデータをもとに、人材育成プログラムを改訂、企業や自治体へ独自の情報を発信
- 「パイロットフィールド」の本格的な稼働

### ファンドレイジング 事業創出・投資事業

- ジェロントロジーに係わる新規事業やベンチャー企業に出資をする投資ファンドを創生
- 投資候補事業に関する需要調査や事業性評価の機能も構築し、起業や新規事業創出を支援

### 目指す姿

全世代が  
心身共に健康で  
より活力や幸福を感じられる  
日本独自の持続可能な  
社会システムの  
早期設計・構築を目指します。



お問合せ先

2019年10月制作

## ジェロントロジー研究協議会 事務局

〒102-0082  
東京都千代田区一番町10-2 一番町Mビル  
(一般財団法人日本総合研究所調査研究本部 内)

T E L : 03-5275-1615  
U R L : <https://www.gerontology.top/>  
Eメール : gero-jimukyoku@jri.or.jp



当研究協議会の活動や「ジェロントロジー」について等、お気軽にお問合せください。